

市民フォト

鹿児島

NO.45

平成3年(1991年)7月1日

特集／かごしま、たそがれ物語



わがまち高度



350m



山田町上空から星ヶ峯方面を眺めてみた。

田園地帯の中央を流れるのは永田川。この川の上流や付近の小河川では、今でもホタルを見る事ができる。自然の恵みが残されている。左手前に一部見えるのが皇徳寺ニュータウン。上方には、左から星ヶ峯ニュータウン、西郷団地

が谷間を隔てて連なる。西郷団地の隣には、市街地や周辺地域の流通機能を向上させる地区としての鹿児島流通業務団地も見える。九州縦貫自動車道と指宿有料道路の連結により交通の利便性が高まり、人と物の往来が増えてきた。

もくじ

わがまち高度 350m	2
特集／かごしま、たそがれ物語	3
クローズアップ（白鳥みなみさん）	12
学校探訪（皆与志小学校）	14
カメラトピックス	15
ハロー鹿児島（アントニオ・サラヴィアさん）	16
シティーアングル	17
わたしの散歩道（岩元恭一さん）	18
シティーアングル	19
わたしの散歩道（岩元恭一さん）	20
市民のひろば	21
（潤いと活気に満ちた南の拠点都市を目指して）	22
ふるさとの史跡（南北朝動乱期の史跡・御所原）	24
集え! 楽し(島廻り節保存会)	25
あなたのフォトサロン（花笑）	26
動物公園のゆかいな仲間たち	27
市立美術館（ベルト・レイズの肖像）	28
島典子さん（南洲橋で）	29
たそがれどき、涼を求めて甲突川	30
へ。水面に明かりが映え、川面を渡る風が心地よい。（人物は、ミス鹿児島の国生百代さん（右）と、友人の中島典子さん）	31

●「表紙」写真説明

たそがれどき、涼を求めて甲突川へ。水面に明かりが映え、川面を渡る風が心地よい。（人物は、ミス鹿児島の国生百代さん（右）と、友人の中島典子さん（南洲橋で）

特集

かしま、たそがれ物語



ざらざらと

輝いていた太陽が
地上に錨をおろして

休息に入るとき

「止まれ」

と叫んでみても
手が届かない

黄金色の世界は

いつしか

藍色に染まっていく

またさき始めた

星の雲を集めて
新しい帆を織ろう

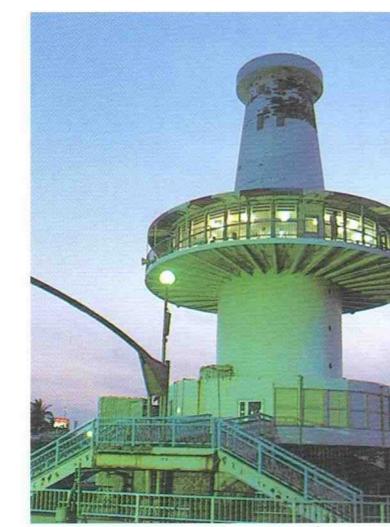
明日の船出に備えて



甲突川のライトゾーン(天保山橋付近)



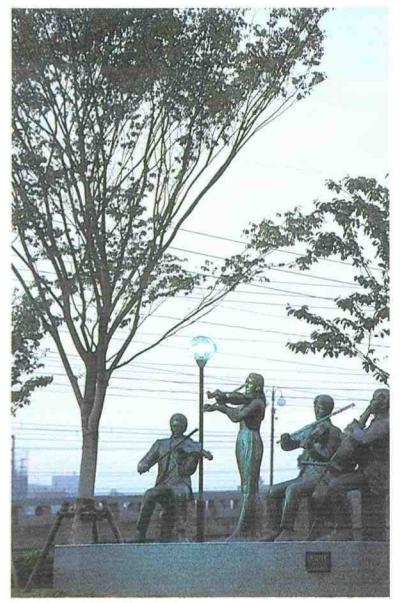
市電センターポール



鶴池マリンパーク



新屋敷から高見馬場方面を望む



甲突川河畔の彫刻「カルテット」

暮れゆく

●くれゆく

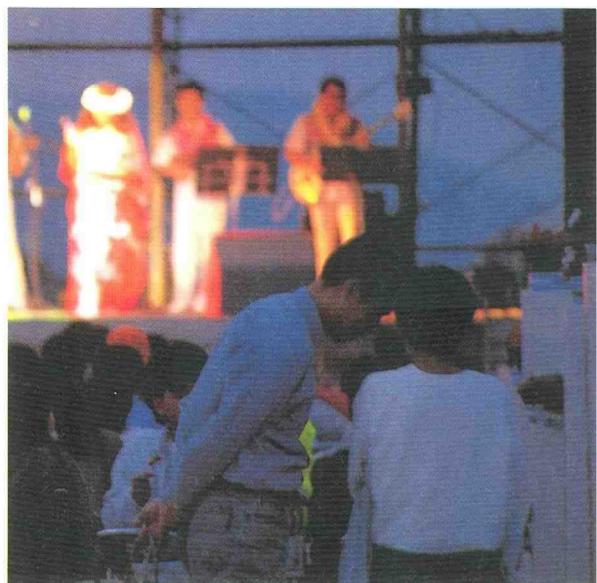
日差しが和らいで
背高のつばの影が伸びる



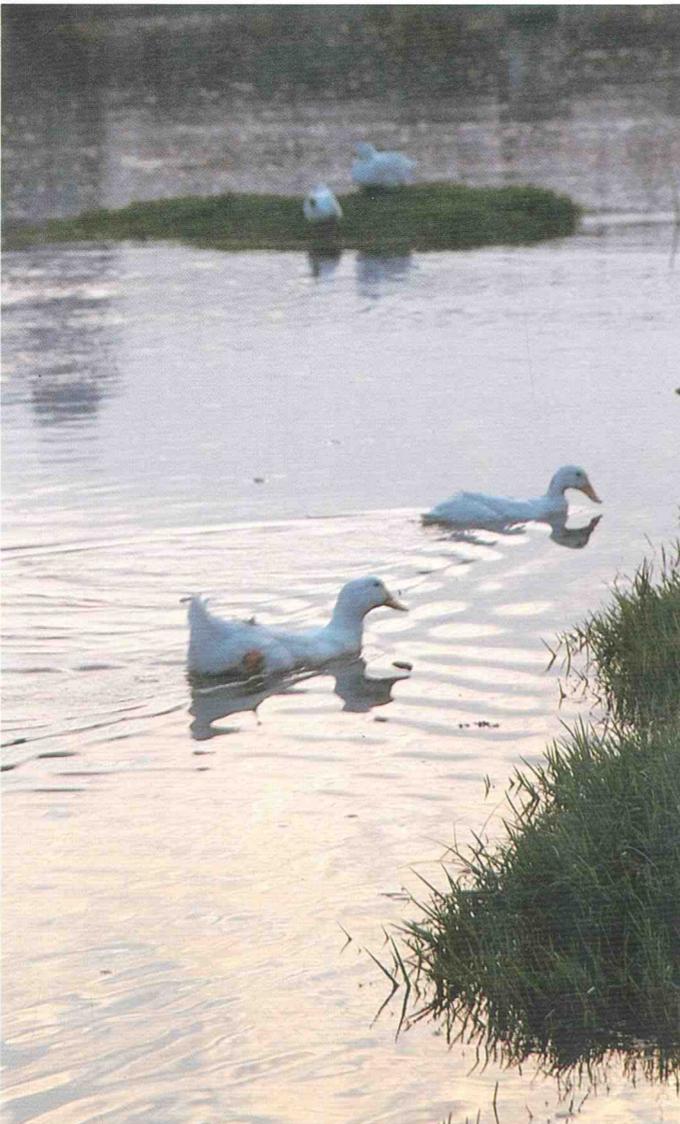
楽しい会話がはずむ(錦江湾公園キャンプ場)



心も体も、リフレッシュ



ウォーターフロントフェスティバル'91



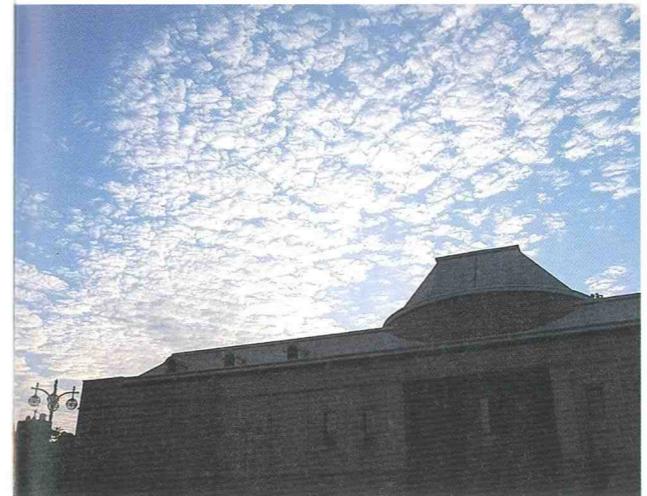
甲突川・松方橋付近

和む

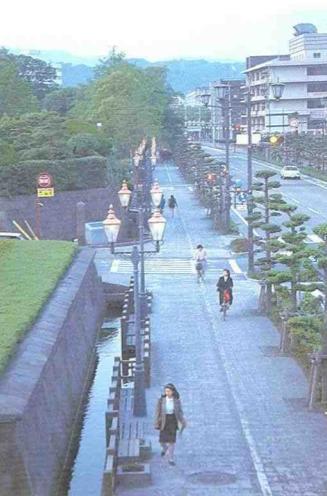
なごむ



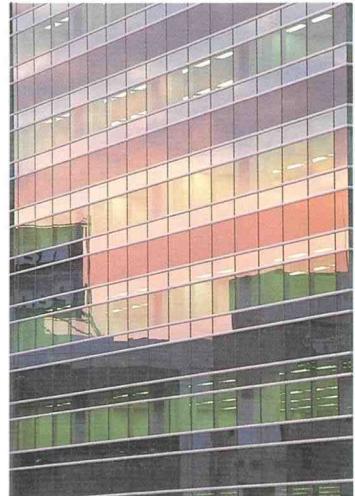
シルエット(文化公園内の彫刻「朝の鶴」)



市立美術館



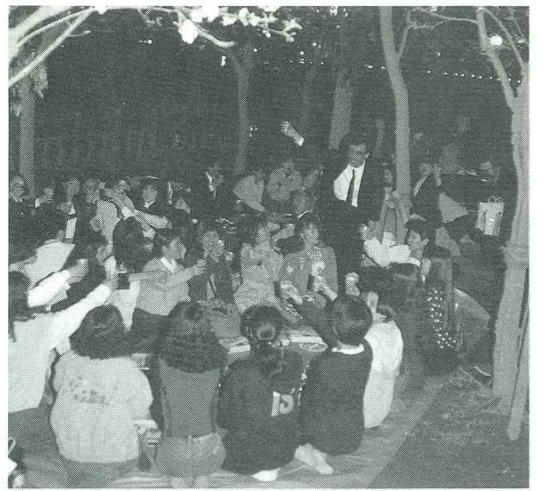
歴史と文化の道



夕焼け空が窓を占領



静かに揺れる(鹿児島港新港区)



花・酒・踊り…(甲突川河畔)



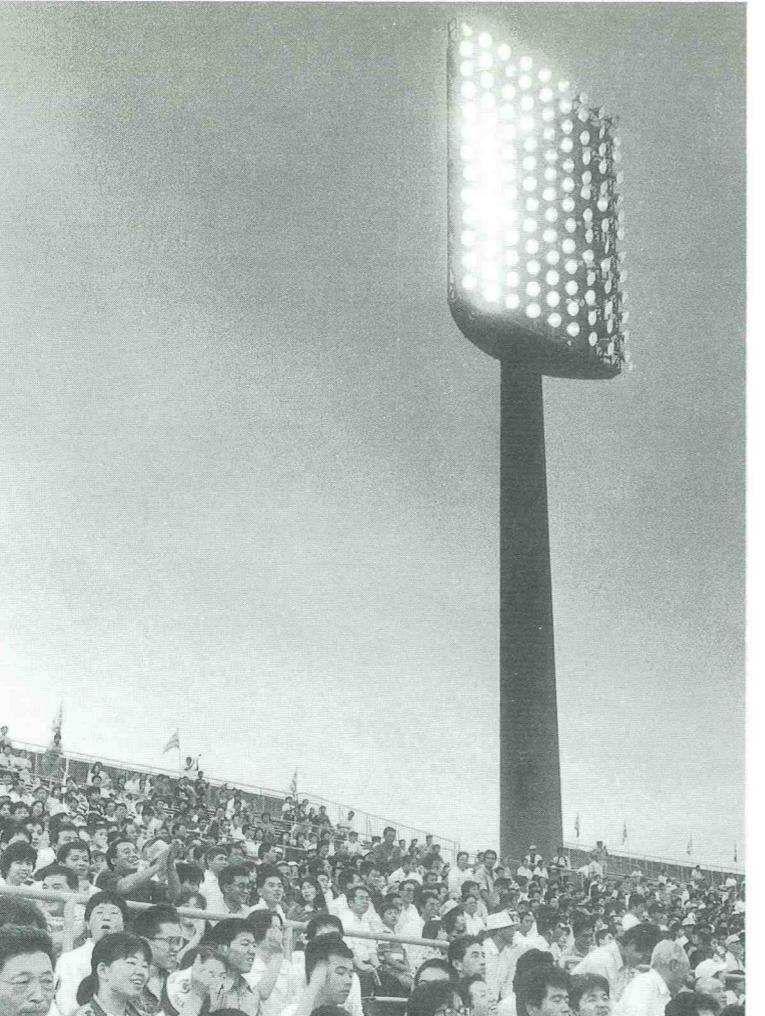
意気揚がる「曾我どんの傘焼き」



おやつとさあ



「さあ、いらっしゃい！」



賑わう

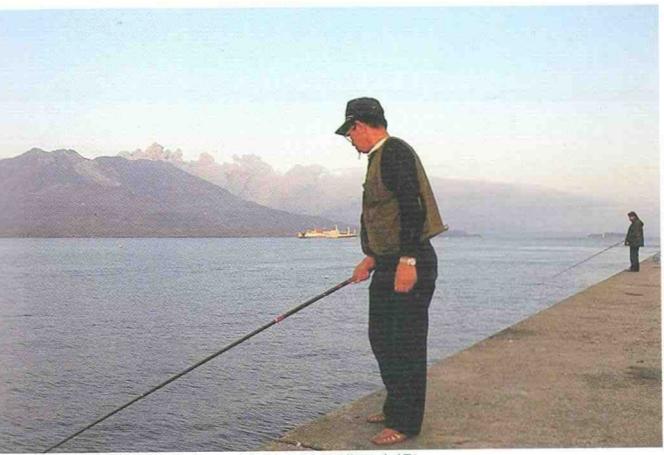
にぎわう

始まつたばかりの夜に
期待の波が押し寄せる

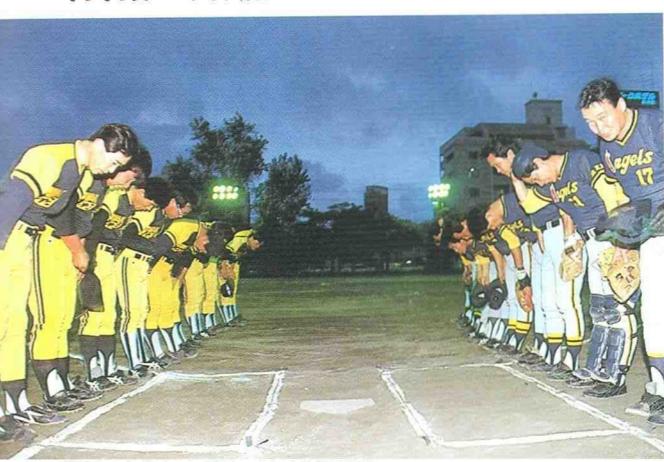
一投一打に目が離せない(県立鴨池野球場)



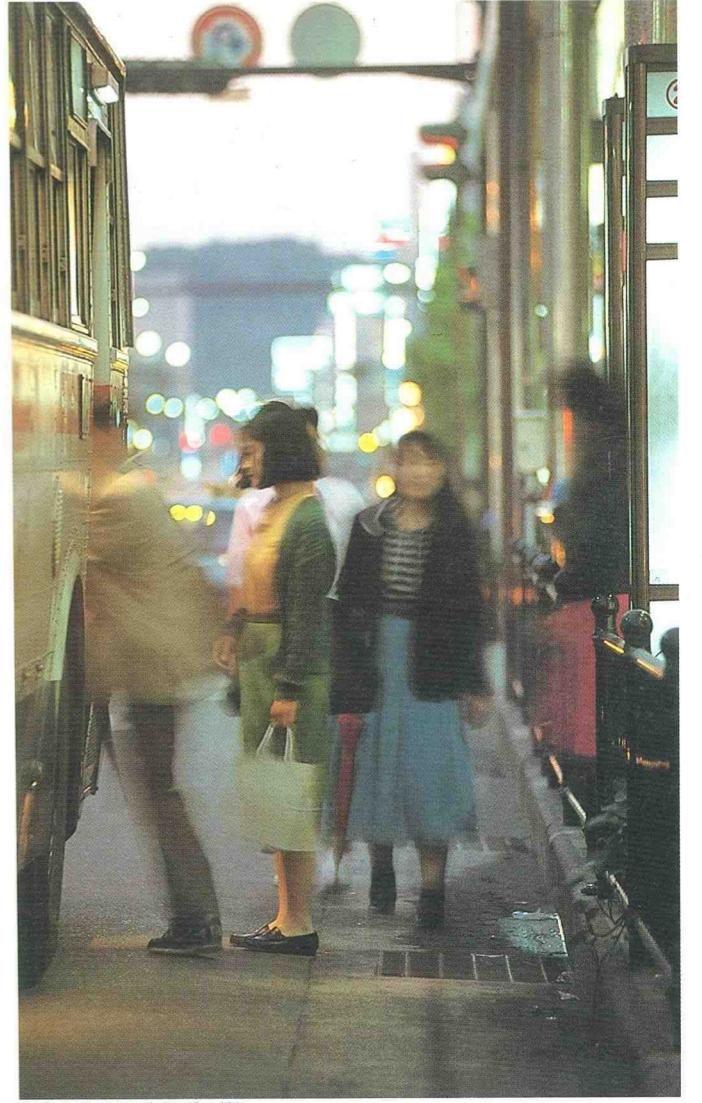
誰に贈るの？



そろそろ食いが来そう(鹿児島港新港区突堤)



勝利の女神よ わがチームに(共研公園)



家路を急ぐ(天文館バス停)

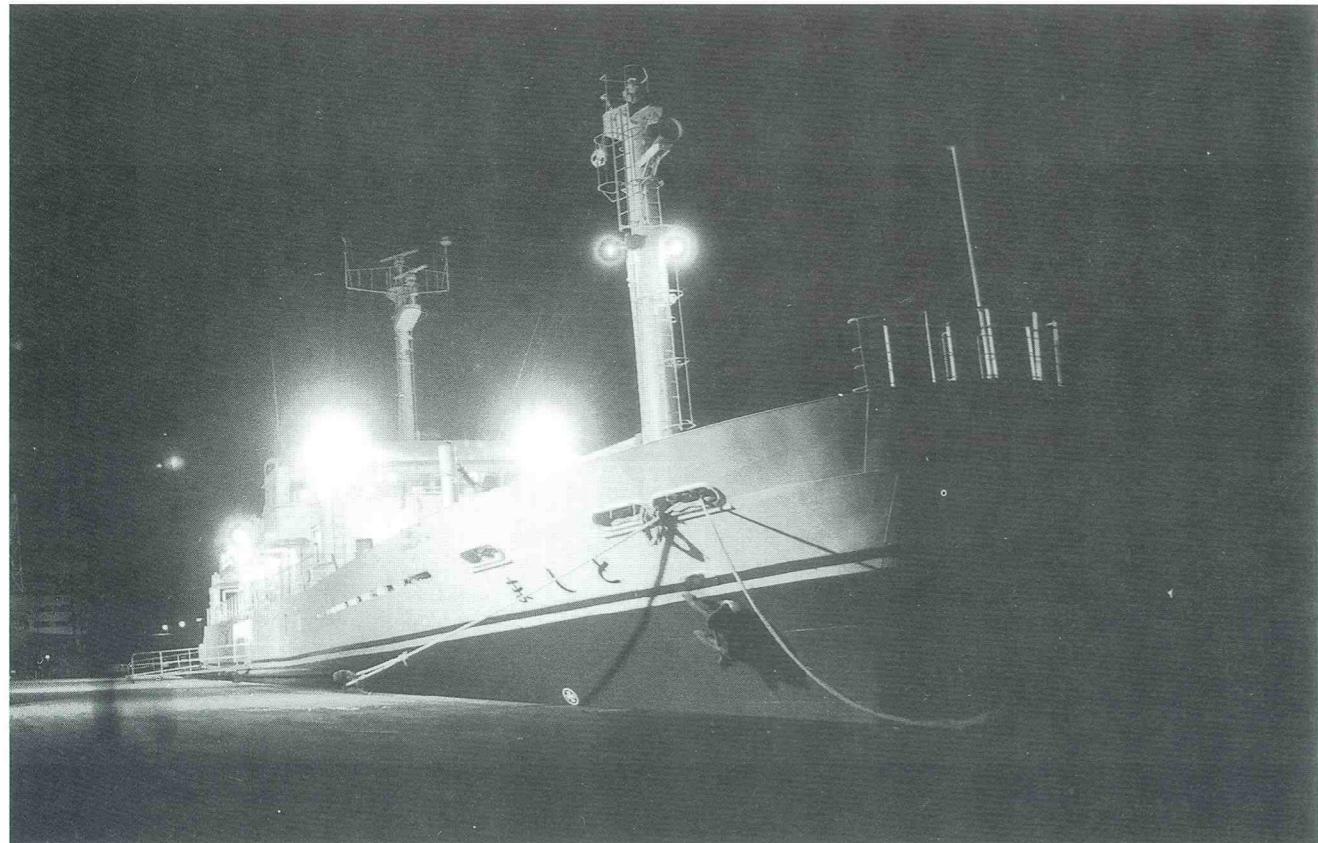


どこに行こうか?(千日街アーケード)

勤しむ

いそしむ

昼間とは違った顔に
真剣さがみなぎる



船体を休めて…(鹿児島港本港区)



語らう



「明日の開店までおやすみ」(閉店後のデパート)

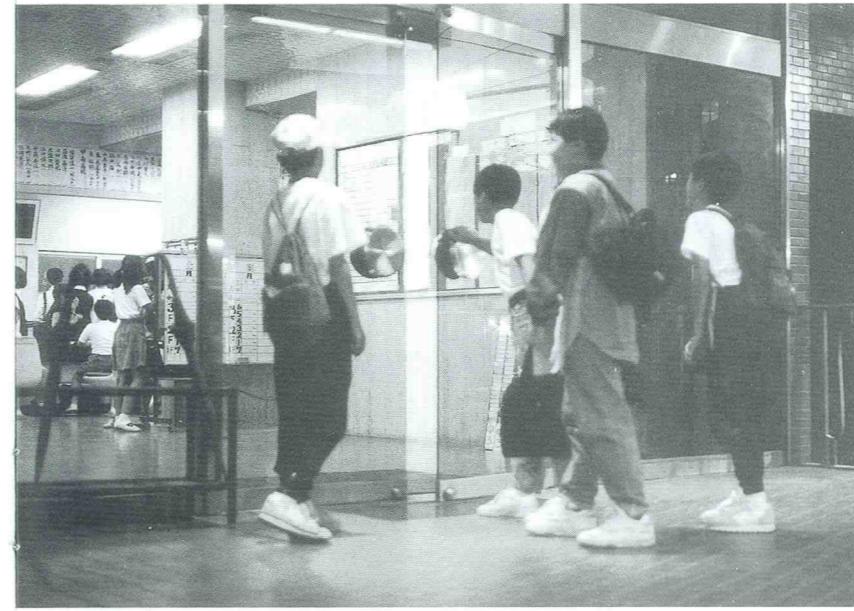
まちは、長い年月を経て変わり、
一日の中でその表情を変えます。
たそがれは、大きくまちの表情
が変わる時。何げない情景や人の
動きにも、いろいろな筋書きが描
けそうです。
ちょっと視線を止めて、たそが
れどきを楽しんでみませんか。

静まる

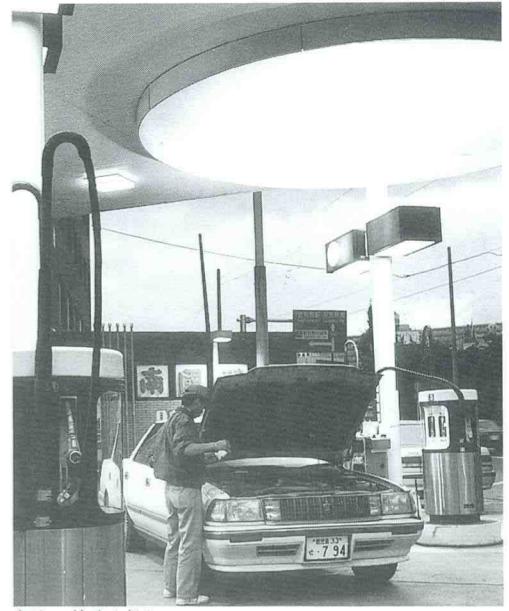
しずまる



楽しみながら健康づくり(県立鴨池庭球場)



目標に向かって!



細心の注意を払う



自己啓発(鴨池公民館)

勤労青少年ホーム

クローズアップ

白鳥みなみさん

白鳥バレエ団・同研究室主宰

日本文化をバレエに生かすのが私のライフワーク。みんなが喜び、感動してくれるようなバレエを演じ、人間性を大事にしていきたい。



●プロフィール

三歳から舞踊の道に入り、十六歳で白鳥バレエ団を引き継ぎ独立。これまで二十九作の創作バレエを制作。「平家物語」で第回芸術文化振興基金を受け、また、永年の盛んなバレエ活動の功績により、この五月、橘秋子賞を受賞。

現在、県・市の要請で芸術文化鑑賞のため、中学生対象の巡回公演をするほか、県バレエ協会会長として、後進の指導育成とバレエ界の発展に努力。細身の体に、バレエへの情熱がみなぎる。五十一歳。

“日本人の感性”を大切にし、自身も今なお踊り続けている。

汗の匂いが立ち込めているのかと思っていた。

加治屋町の電車通り沿いにあるシックなビルの二階。ドアを開けると、板張りの練習場が日に照らされてキラキラ輝き、その中で、日本のプリンマドンナ・白鳥みなみさんが出迎えてくれた。練習場は汗の匂いなどみじんもなく、むしろ、さわやかな風が吹き抜けていた。

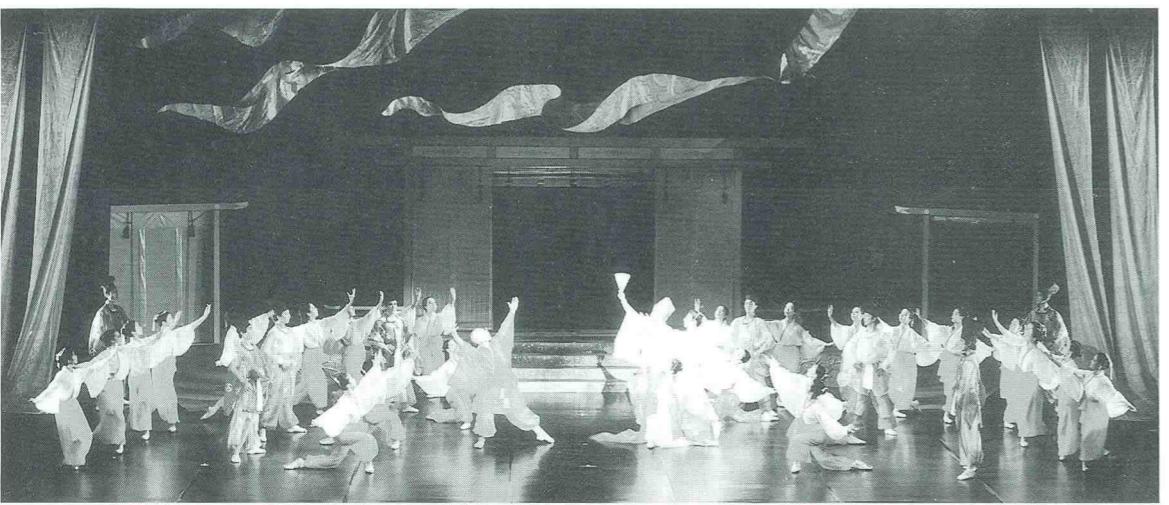
昨年、白鳥バレエ団の創立四十年を記念して、文化庁主催の芸術祭で三回目の公演を行った。「三年間温めてきました」という創作バレエ「平家物語」は、これまでの白鳥バレエ団の集大成だった。

「バレエの発祥は西洋。長い間、西洋の人たちが築き上げてきた歴史がある。そのバレエを日本人が

いくらやつても、その素晴らしさに到達しない。ならば、日本人の作品を、日本人の感性でやつてみよう」。こんな発想から「雅(みやび)」を追求する日本文化に、西洋のバレエテクニックを組み込む、白鳥さんの創作バレエ作りの戦いが始まった。

以来、「ヤマトタケル」「耶馬台」と創作バレエの公演を続け、今回「日本的な題材を使っているが、これは、かなり厳格なクラシックの手法によって作られたバレエなので、この作品は、そのままボリショイバレエ団が上演してもいいような素晴らしい内容だ」(バレエ評論家・山野博大)と、専門家たちから賞に匹敵するほどの評価を得た。

「日本文学にバレエを取り入れた



昨年秋の芸術祭での公演「平家物語」(於)東京郵便貯金ホール「メルパルク」

ことが、観客にスムーズに受け止められた。ダンサーもバレリーナも日本人。衣裳もセットも日本古来のもの。決して、日本文学がバレエにマッチしないことはない、ということが証明できました」と話す

白鳥さんの充実感、満足感がひしひしと伝わってくる。

バレエは東京近郊のものだけがいいものとみなしがちな風潮から、けられ始めた。こういう意味でも、

今回の公演は大きな意義をもつ。

白鳥流創作バレエが脚光を浴びる中、五月に市民文化ホールで行われた「第一回かごしま児童文学フェスティバル」で、児童文学者、故・椋鳩十さんの童話「おしどりものがたり」をバレエにして披露した。「観客を初めから引きつけて放しませんでした。わたしたちは椋作品を広く伝えるために、どういう手段があるか検討してきましたが、バレエは、その重要な手段の一つであることが分かりました」と、同フェスティバルを主催した市教育委員会も絶賛した。

「これからしたいことは」と尋ねると、「各地の皆さんのが『平家物語』の再演を望んでくださいますので検討しています」。

身振り手振りを加え、実に豊かに話し、相手を引きつける。三歳のときからバレエを始め、走り続けてきた。少女のまま大きくなつたような白鳥さんは、まだまだ走り続けることだろう。



収穫の日を楽しみに～学校農園にて田植え

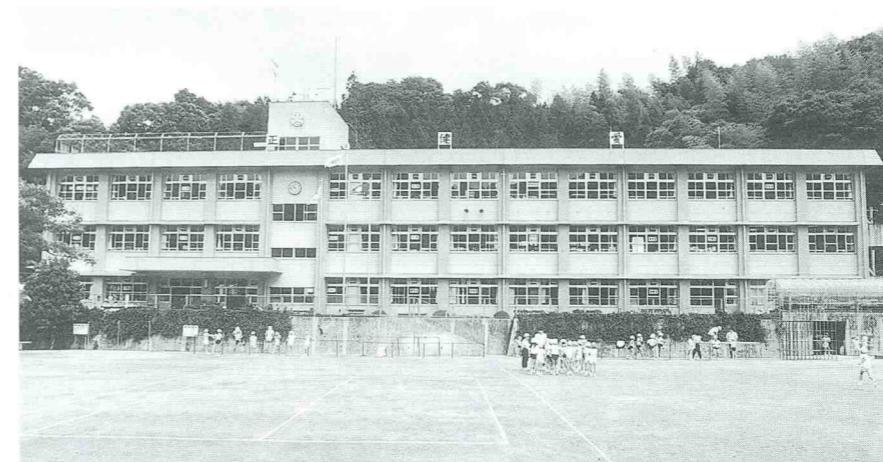


見て！見て！歯みがき上手でしょう

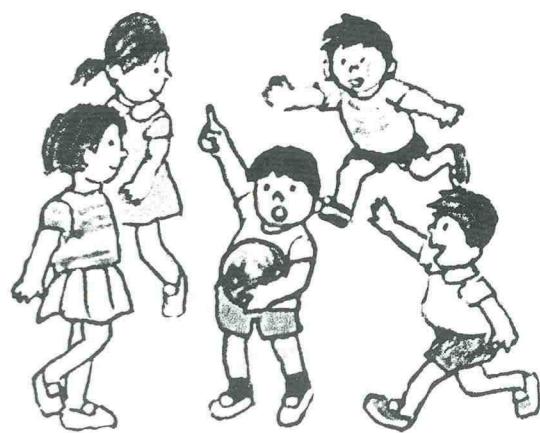
おひとつ、いかが？～1年生の図工教室



みんなで食べれば食欲もりもり～バイキング給食



校舎には伝統芸能の「棒おどり」の壁画が



学校探訪

皆与志小学校

●創立：明治二十五年四月一日
●児童数：七十一人（五月一日現在）

皆与志小学校
大好き！

六年

盛満 美鈴さん

私たちの小学校は、大警視川路利良の創立した「明命學」を受け継いで、明治二十五年に皆与志尋常小学校として創立され、昭和二十五年に現在と同じ名前の鹿児島市立皆与志小学校となりました。

昭和三十年代は人数も多く、学級数も一学年三学級ほどあったと私の父がよく話してくれますが、今では、どの学年も一学年一学級で、学級の人数も八名から十五名全體でも七十名ほどです。

人数は少ないので、じまんできることが二つあります。

一つは、自然環境にめぐまれて

いることです。こい縁に包まれた学校の前には小川がながれ、春には美しい野の花が咲きほこります。小鳥のさえずりや虫の鳴き声が聞こえるなか、私たちはのびのびと勉強やスポーツにはげむことができます。

二つめは、みんなが仲よく助け合いながら、明るく、楽しい学校生活をおくっていることです。私たちの学校は、市立皆与志幼稚園と併設されており、学校行事でいっしょに活動をしたりします。また、皆与志養護学校との交流学習もすすめられています。あいご会の結びつきも強く、校区のみんなが家族のようにつきあっています。私は、こんな温かみのある皆与志が大好きです。

薩摩の郷中教育の伝統を受け継いだ校訓「正・健・愛のもと、私たちたちが築いてくださった伝統をしっかりと守り、私たち「皆与志」は未来に大きくはばたいていきたいと思います。

これからも、皆与志小学校の先輩たちが築いてくださった伝統をしっかりと守り、私たち「皆与志」は未来に大きくはばたいていきたいと思います。

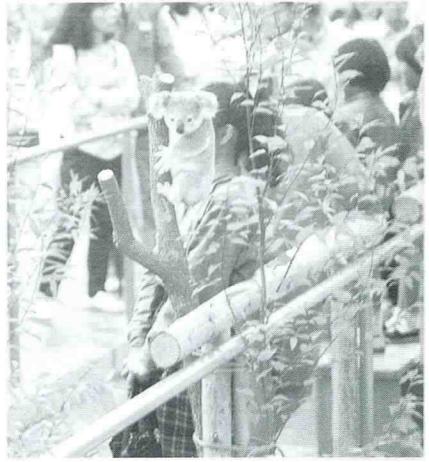
カメラトピックス

カメラトピックス

5月8日～12・マイアミ市へ初の公式訪問
市長を団長とする親善訪問団が、昨年の11月1日に姉妹都市盟約を結んだアメリカのマイアミ市を訪問しました。滞在中は、両市の盟約を記念する「鹿児島通り」の命名式、ウォーターフロントや観光に関する情報交換などが活発に行われ、友好のさながら深りました。



4月29日・コアラと写真を撮ろう
平川動物公園で初の試みとしてコアラとの撮影会が行われ、大勢の家族連れでにぎわいました。特に、子供たちは、コアラと一緒に写真を撮ってもらい、そのかわいいしぐさに大喜びしていました。



4月28日・畜産フェスタ'91大盛況
市民が家畜とふれあうフェスティバルが与次郎ヶ浜で行われ、鹿児島牛と黒豚の品評会や野菜の即売などがありました。特に、ふれあいコーナーでは子どもたちがボニー や子豚などとたわむれています。



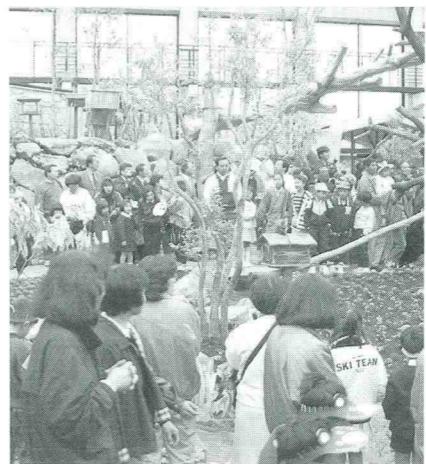
4月11日・鹿児島駅前電停の上屋が竣工
鹿児島駅前電停に、軌道3線を覆う上屋が完成しました。これにより、雨や降灰から乗客を守り、また今回、軌道が1線増えたことで市電の乗り降りがさらに便利になりました。



5月1日・第1回かごしま児童文学フェスティバル
椋鳩十児童文学賞の創設を記念して、市民文化ホールでフェスティバルを開催。「感性を育てる子供の読書」をテーマにしたシンポジウムや市立少年合唱隊の「文部省唱歌メドレー」、朗読劇などが披露されました。



4月8日・第6回作品「カルテット」の除幕式
彫刻のあるまちづくり事業の一つとして、武之橋右岸の緑地帯にブロンズ像がお目見えしました。桜島を背景に4人が弦楽器を手に音楽を奏でている様子を表現しています。安らぎを与えてくれる場所がまた一つ誕生しました。



3月31日・ふれあいランドがオープン
平川動物公園に「ふれあいランド」が完成しました。リスを放し飼いにした「リスの森」や、ウサギなどの小動物に直接触れるコーナー、ヒツジやロバなどを柵越しに触れる「ミニ牧場」もあり、子供から大人まで楽しく過ごせます。



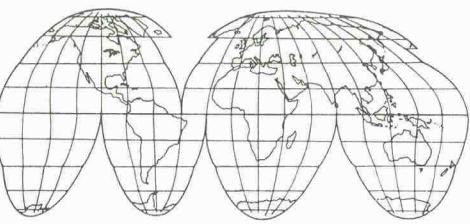
3月22日・第1回鹿児島市建築文化賞の授賞式
美しい街並みと豊かな都市景観をめざして、昨年創設された建築文化賞の授賞式があり、4つの建築物が受賞しました。今後、この賞が鹿児島市の魅力ある街づくりの推進に寄与することが期待されます。

HELLO

KAGOSHIMA

ハロー鹿児島

アントニオ・サラヴィアさん(ボリビア)



南米に位置するボリビア共和国。

主要産業は鉱業と農業。しかし、農村では義務教育さえ受けられず、

また、満足に食事も出来ない子供たちも多い。こういう状況に幼いころから関心を抱き、どうすれば、みんながお腹いっぱい食べることができるのかと考えるようになった。そして、何とかしてボリビアの荒れた土地でも、うまく作物を育て

ることはできないものかと考え、

先進国の農業について研究する道を選んだそうだ。

現在は、鹿児島大学農学部熱帯植物学科修士過程で、主に稻など

の種苗の研究をしている。将来は、母国に無料の農業学校をつくるのが夢である。日本で学んだことを、子供たちのために役立てたいとい

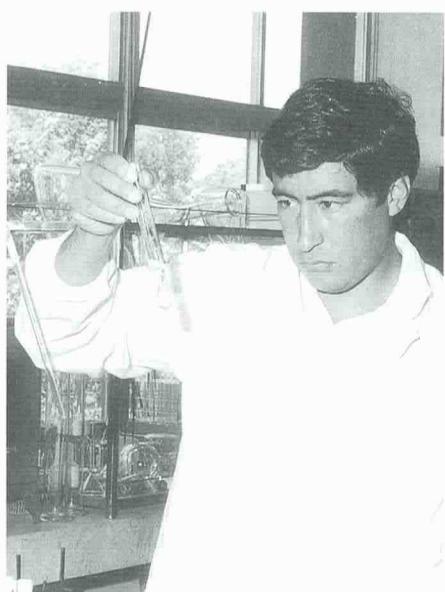
鹿児島での生活は、ほとんどが

勉学に費やされるが、今年から国際サッカーチームのリーダーとなり

土曜日に熱心に練習に励んでいる。このチームは、彼の呼び掛けで集まつた留学生など、いろいろな国の人びとで構成されている。試合に勝つことよりも、サッカーを楽しみながら友好を深めあうことが目的だという。「その国のこと

は知っていても、お互いのことはわかりにくいことが多い。でも、心の壁をとり除き、心と心がふれあえれば友人になれると思います。

大切なのは、国籍にこだわらず、同じ人間同士だと考えることではないでしょうか」。穏やかに語る姿は、ごく自然に、周りの風景にとけこんでみえた。

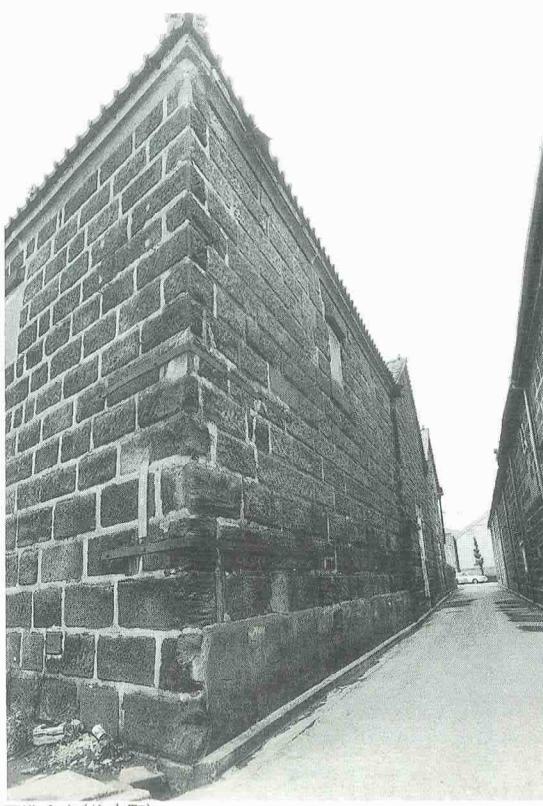




市役所前大通りの車道



ひらもーる(天文館おつきや商店街)



石造倉庫(住吉町)



シティ

ア

-

グ

ル

すべてに「調合とり。ヒート」の 気持ちを!

市観光協会・会長 岩元恭一さん

友だちとターザンごっこなどをし

て遊んだ多賀山は、子供時代の思い

出づくりの場所でした。市街地や

城山が一望でき、自然環境にもま

だ恵まれています。西南戦争の官

軍本陣も見晴らしの良い、多賀山

だったんです。

太平洋戦争直後の焼け野原を思
い起こしますと、いまの復興ぶり

には、いつも感激します。孤を描
くように港が広がり、その背後に

控える市街地。港の整備も進み、

次節に街全体に深みが出てきたよ
うですね。

先般、市親善訪問団の一員とし
て訪れたマイアミ市はウォーターフ

ロントに象徴された、素晴らしい

美しい都市でした。

でも、桜島、錦江湾、市街地の

三つが織りなすこの雰囲気は、お

そらく鹿児島市だけのもの。静か

な海原に、動きのある桜島が映え

る鹿児島は世界に誇れるまちだと

自負したいですね。

東郷元帥が眠る多賀山からの見

事な眺めは、まちづくりの可能性

たすのではないでしょうか。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

昨年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

今年の『翔ぶが如く』を契機にし
た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

「いつも相手の身になつて考え、

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

どうしたらよいか」ということを心

の片隅に置きながら…。

昨年の『翔ぶが如く』を契機にし
た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

今年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

「いつも相手の身になつて考え、

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

どうしたらよいか」ということを心

の片隅に置きながら…。

昨年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

今年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

「いつも相手の身になつて考え、

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

どうしたらよいか」ということを心

の片隅に置きながら…。

昨年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

今年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

「いつも相手の身になつて考え、

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

どうしたらよいか」ということを心

の片隅に置きながら…。

昨年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

今年の『翔ぶが如く』を契機にし

た歴史・観光浮揚は、「鹿児島に行
つて良かつた。もう一度行きたい

ね」という温かい気持ちをたくさん

はぐくんだことでしょう。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

新しい息吹を感じられます。

新しさと古さが調合できる接

点・上町地区は、いろいろな意味

で昔よりはるかに重要な役割を果

たすのではないでしょうか。

「いつも相手の身になつて考え、

せん。

鹿児島のまちづくりは、素晴ら

しい勢いで進んでいます。これか

らは、住んでいる人、その人を取

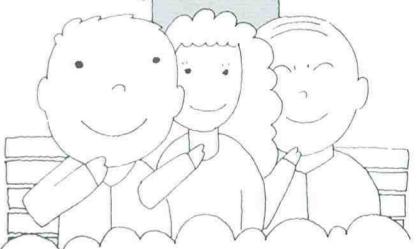
り巻く環境づくりに、じっくりと

時間をかけていかなければなりま

せん。

市民のひろば

「市民のひろば」はMBCから放送されます。
放送日時は、毎月第三日曜日を除く日曜日の午前十時三十分から十五分間。ただし、第四日曜日は三十分間。(この番組は、平成三年四月二十八日に放映したもの)



【出演者】敬称略
浅田 清一郎(市政モニター)
上赤 真由美(市政モニター)
高橋 千恵子(市政モニター)
赤崎 義則(鹿児島市長)
上野 知子(司会)

潤いと活気に満ちた南の拠点都市を目指して

二十一世紀に向けた新しい鹿児島市のまちづくりの基本的な方針を定めた第三次総合計画の基本構想が決まりました。番組では、南洲公園で桜島と錦江湾をバックに、個性ある魅力的な鹿児島市のまちづくりなどについて、市長と市政モニターの皆さんが語り合います。



島大学学長・井形昭弘さんに計画の審議に当たっての感想などを伺いました。

◎井形学長へのインタビュー

●市民の手づくりによる第三次総合計画ができた
上野 鹿児島市では、二千一年を目標年度とした第三次総合計画基本構想が決まりました。二十一世紀の鹿児島市の都市像を「潤いと活気に満ちた南の拠点都市・鹿児島」として、「縁につづまれた安全で住みよいまち」「調和のとれた機能的なまち」「健康であったかみのあるまち」「豊かな心と個性がはぐまれるまち」「にぎわいに満ちた活力のあるまち」という五つの基本目標を掲げています。

市長さん、総合計画を策定され

て、いまどんなお気持ちですか。

特に、市制百周年を記念して募

集した二十一世紀への提言、市制百周年シンポジウムの開催、市民

市長 昨年「翔ぶが如く」の活気が残っている時期に、二十一世紀へのまちづくりの基本方針が立てられたことは、非常に素晴らしいことだと思いますね。

特に、市制百周年を記念して募

集した二十一世紀への提言、市制百周年シンポジウムの開催、市民

意識調査、二十一世紀へつなぐまちづくり懇談会などを通じて、市民の皆さんの声を聞き、その提言や夢を盛り込んでありますので、いわば、今回の総合計画は市民の方々に自らつくっていただいたものだと評価しています。

上野 総合計画審議会会長の鹿児

島市では、二千一年を目標年度とした第三次総合計画基本構想が決まりました。番組では、南洲公園で桜島と錦江湾をバックに、個性ある魅力的な鹿児島市のまちづくりなどについて、市長と市政モニターの皆さんが語り合います。

●この十年間で、まちづくりの方向性が確立された

上野 ところで、最近の鹿児島市は、モニュメントのある公園、歴史と文化の道など、潤いを感じられる場所が増えましたね。前総合計画の十年間を振り返ってみて、市長さんはどのように感じられますか。

市長 まず、鹿児島市も非常に発

展してきたなと思いますね。

特に、市制施行百周年を迎えた

ことは、鹿児島市がこれまで歩いた道を振り返り、これからどう

ういう道を歩いていくべきかを市民全体で考える大きな機会になつたのではないかとも思

たのではないでしょうか。

また一方で、この十年間で、二十一世紀へのまちづくりの方向性が確立されたのではないかとも思

いますね。

上野 本港区もずいぶん変わったですね。

市長 そうですね。旅客船ターミナルや水族館を計画しています。

また、国際総合物流センターの構想も先日発表されましたね。

上野 これは、単なる港ではなく、鹿児島の海の玄関、そして海洋文化の拠点

として、そこからまちが開けていくという、そういう方向を今回はとりました。

二つめは、ウォーターフロントを含めたまちの再開発。

上野 ところでも、今回の総合計画で、特に力を入れているところはどういうところですか。

市長 一つは、まちの活力は人口が増えていかなければならない。

そして、そこからまちが開けていくという、そういう方向を今回はとりました。

二つめは、ウォーターフロントを含めたまちの再開発。

上野 ところでも、今回の総合計画で、特に力を入れているところはどういうところですか。

市長 一つは、まちの活力は人口が増えていかなければならない。

が認識することですね。

次には、高齢者になることは誰も避けられないことをわかつてもらうこと。それから、地域が皆で高齢者を大事にするという地域福祉、在宅福祉が大事だと思います。これから市政の中の大きな分野が福祉、とりわけ高齢者福祉だと思いますね。



第1回 棕鳩十児童文学賞授賞式



工事が進む本城和田線

● 豊かな心が育つまちづくり
上野 二人の小さな子供さんをお持ちの上赤さんは、子供たちがこれから育っていく鹿児島のことをするいろいろ考えられるのではないですか？

●交通基盤の整備が課題

上野　高橋さんは、身近な問題で何かありますか。

—ラインと言っていますが——をまずつくり、それにつながるろづ貫的な道路を整備していくことが大事だと思っています。

市長 二年度は第三次総合計画の初年度ということで、一つは、今までの事業をほとんど完結させたい。一つめには、南部清掃工場、市民スポーツセンターなどの大きなプロジェクトの早期完成へ努力する。三つめに、この総合計画を実

「くり鹿児島市とつなぎ、また、薩摩半島と桜島、大隅半島をつなぐ橋をつくり、観光客が飛行機から降りたら目の前に桜島があるというようになつたらいいですね。」
上赤 子供たちが「お母さん、鹿児島に住んでよかつたね」と言つてくれ

市長 うれしいのは生涯学習について市民の関心が非常に高まつてきただということ。これは、素晴らしいことだと思います。

増加を支えているといわれるよう
に、大変な発展を遂げていますが、
道路の整備が遅れています。

●三年度予算の特色は

本設計と用地取得をしたいと思つ
て い ま す。

そのほかにも、これからまち
づくりの基本になる、十いくつか
の新規事業を計画して い ま す よ。

グラウンドゴルフを楽しむお年寄り



グラウンドゴルフを楽しむお年寄り

祉対策、特に高齢者福祉対策が今後年々予算の柱になると思います。

新規事業としては、観光客や市民の方々に歴史のまち鹿児島を見学して、知つていただくための「維新ふるさと館(仮称)」の設計ですね。

また、農業をする人の勉強の場、一般市民には上にまみれ、自然にふれる場として、大迫町に約二十二ヘクタールの「都市農業センター(仮称)」をつくりますが、今年は基

高橋 やはり、海を生かしたまちづくりですね。人工島や海上バスなど、錦江湾という素晴らしい自然と共に存していきたいですね。

上野 第三次総合計画に基づいてダイナミックな動きが今から始まりますが、市民の方々にもご注目いただきたいと思います。

さきようは、皆さんありがとうございました。

市長 二年度は第二次総合計画の初年度ということで、一つは、今までの事業をほとんど完結させたい。二つめには、南部清掃工場、市民スポーツセンターなどの大きなプロジェクトの早期完成へ努力する。三つめに、この総合計画を実現していくための基礎的調査を行

「くり鹿児島市とつなぎ、また、薩摩半島と桜島、大隅半島をつなぐ橋をつくり、観光客が飛行機から降りたら目の前に桜島があるというようになつたらしいですね。」
上赤 子供たちが「お母さん、鹿児島に住んでよかつたね」と言つてくれるような、夢のもてるようなま

里

卷之三

本設計と用地取得をしたいと思つています。

そのほかにも、これからの中づくりの基本になる、十いくつかの新規事業を計画していますよ。

● 三年度予算の特色は 谷山副都心として、交通の結節点づくりも二十一世紀までには実現しなければと思っています。

本設計と用地取得をしたいと思つて
います。

本設計と用地取得をしたいと思つて います。

そのほかにも、これからまちづくりの基本になる、十いくつかの新規事業を計画していますよ。

●夢のあるまちづくりに期待しています

上野 最後に、ゲストの皆さんから、こんな鹿児島市になつてほしいということがありましたら。

浅田 錦江湾の真ん中に飛行場をつくり鹿児島市となぎ、また、薩摩半島と桜島、大隅半島をつなぐ橋をつくり、観光客が飛行機から降りたら目の前に桜島があるというようになつたらいいですね。

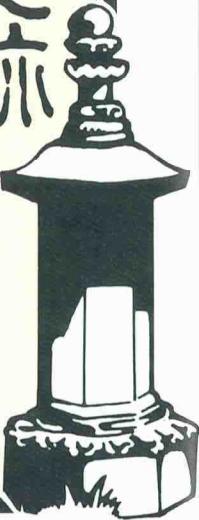
上赤 子供たちが「お母さん、鹿児島に住んでよかつたね」と言つてくれれるような、夢のもてるようなまちになつてほしいです。

高橋 やはり、海を生かしたまちづくりですね。人工島や海上バスなど、錦江湾という素晴らしい自然と共生していきたいですね。

上野 第三次総合計画に基づいてダイナミックな動きが今から始まりますが、市民の方々にもご注目いただきたいと思います。

きょうは、皆さんありがとうございました。

ふるやまとの史跡



南北朝動乱期の史跡
御所原(見寄原)

市文化財審議会委員 木原 三郎

後醍醐天皇の皇子、懷良親王は征西將軍の宮として九州に下向され、興国三年（一二四二）に海路日向から薩摩津（今の山川港といわれている）に到着された。谷山郡司谷山隆信は、親王を直ちに谷山城（千々輪城）に迎え、見寄原に館を建てて御所とした。

前方一帯は海に臨み、三面は絶壁に囲まれた要害堅固な

御所原は南北百二十メートル、東西百八十メートルの高原で、

前方一帯は海に臨み、三面は絶壁に囲まれた要害堅固な

つた。

親王の
令旨は
各地に

飛び、

南に指宿・頬娃・知覧、北に矢上・伊集院、西に鮫島の各氏が

相守る形になり、各氏とも御所原に參集し、北朝方の島津家五代貞久と対立した。

はるか東北一帯は、波之平、紫原の台地を望み、御所原を中心にして、東福寺城、催馬楽城、

青屋松原、牛下、筑貫、波之平の戦乱が続いた。親王はこの地に六年間滞在し、南朝方の形勢は

有利であった。その後、肥後の形勢が悪く、正平二年（一二四七）谷山御所を後に、熊野水軍三

十余隻に護衛され、菊池武光の隈府城に入城、筑後川の合戦、太宰府の落城と戦乱が続いた。



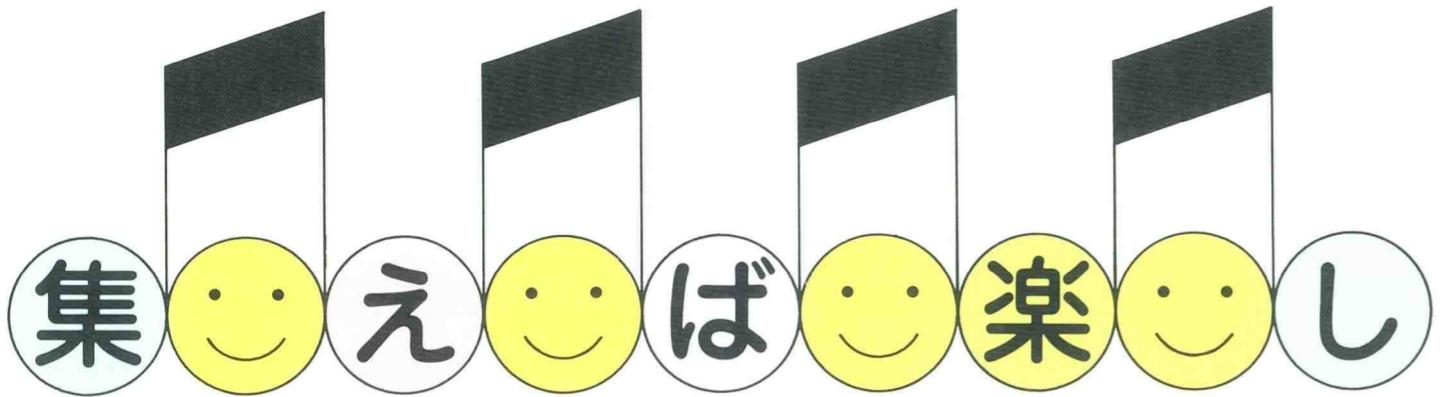
① 懐良親王御所記念碑



③ 御所原より波之平城を望む



② 懐良親王記念碑之道碑



火の島・桜島が いまに伝える!

まわ
島廻り節保存会

豊臣秀吉の朝鮮出兵の時、島津
が勢力を鼓舞するために始めたと
伝えられる「島まわり競漕」。

こぎ手の男たちに声援を送る、
言わば応援歌・『島廻り節』は、毎
年八月の彼岸の中日に行われた一
大イベント・舟こぎ大会で歌い踊
られるなど、島民の間に脈々と伝
承されました。

大正三年の大噴火で大隅半島と

桜島が陸続きになると、この踊り
も途絶えてしましましたが、地域

住民の強い希望により、昭和五十
年に復活。翌々年には市の無形民
俗文化財に指定されました。

「東桜島公民館の『島廻り節講座』
が開設され、現在、小学生から大
人まで総勢三十人あまりで頑張つ
ています」と喜寿を迎えた佐々木

利光さん(保存会長)は、化粧姿の
子供たちを見てほほえんでいまし
た。

桜島が一つの島だったときの様
子を現代に残す郷土芸能、島廻り
節。

まさに「桜島ならではの歴史的、
文化的な財産」として、いま、次代
を担う子供たちにしっかりと引き
継がれていることに頼もしさを感
じました。

『島廻り節』

一、さらば 東西はじめました

縁ぢやが 妻ぢやが 定めたかいにや

後ろに回れ 回つたおれおれ

ヤア ヤア ヤア ヤツサ……

二、船は早かれ 橋は 押しよかれ

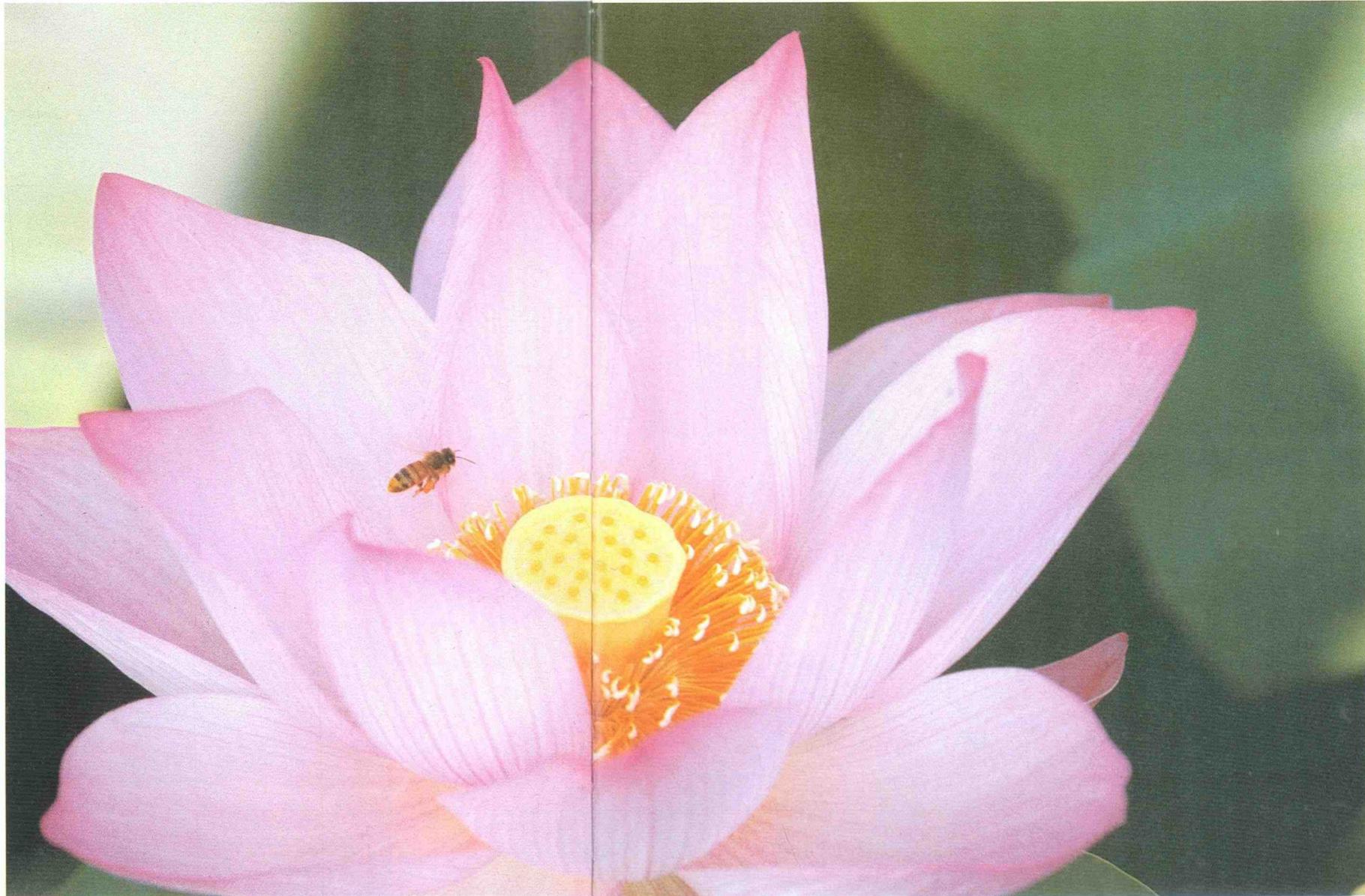
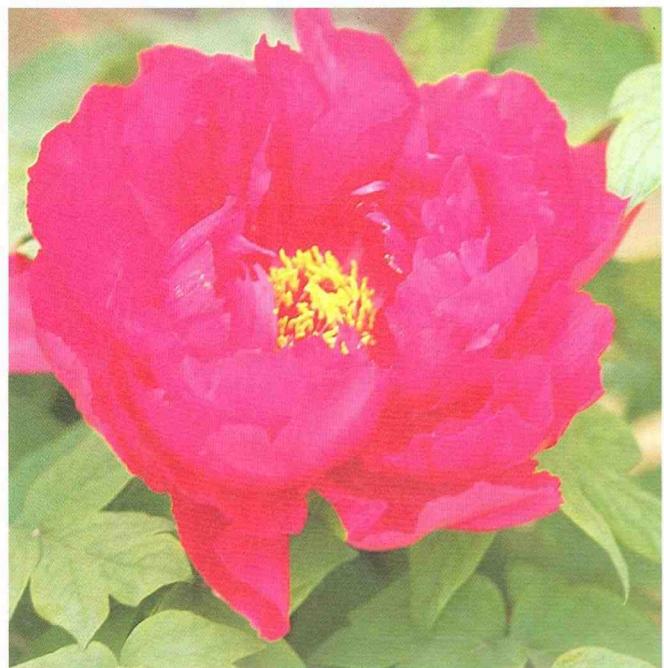
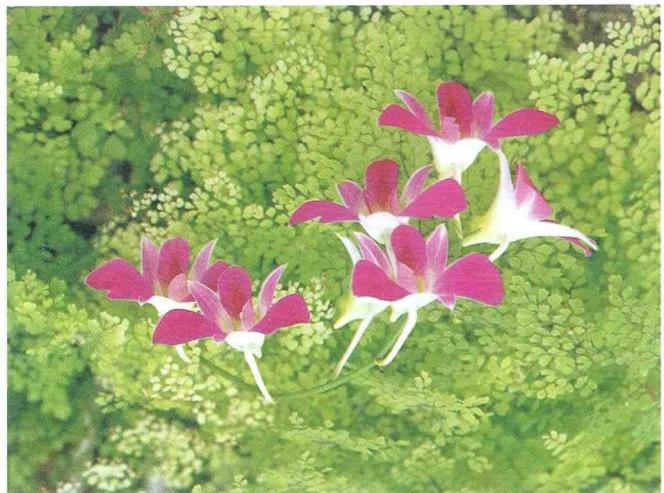
谷山 まるきは 一丁橋ぢや 登らん

二丁も 三丁も 四丁橋で 溪げ こげ

ヤア ヤア ヤア ヤツサ……

島
桜
島まわり節保存会
鹿児島市東桜島町

あなたのフトサロン



花笑
はなえみ

自然が好きで、いろいろな題材を撮っていますが、花は特に関心をもっているテーマの一つです。シャッターを押していると、いつのまにか心がなごんできます。花の盛りは短いので、時期を逃さないようにすることが大切ですし、色や形、情景を生かすために工夫を凝らします。花についての本も読みます。人目につく場所、つかない場所、どこででも美しく咲く花。素晴らしい花との出会いに感動し、その感動を写真で表現できたときは本当にうれしいです。

写真と文／福島慶明さん



コアラ舎からコアラが脱出!?
さあー、大変!



最初は緊張したけど…。

人間たちのパリパリパリが面白くて、たっぷりサービスしちゃつた(コアラ談)

“ダイ”“リョウ”でした。

実は、四月二十九日に行われた平川動物公園主催の『コアラと写真を撮ろう』の一コマ。

「ぬいぐるみよりかわいい」「コアラが動いた」「こっちを向いて!」十四匹のコアラ家族の中で、初出演を見事に飾った三匹は、“イブ”

市立美術館



ベルト・レイズの肖像(1952年)

サイズ(73.0cm×60.0cm)

油彩・キャンバス

ラウル・デュフィ(1877~1953年)

〈作者〉 北フランス、ノルマンディーのル・アーブルに生まれる。1900年、パリに出て国立高等美術学校に入学、ポンナのアトリエに学ぶ。最初の頃は印象派や後期印象派風の風景画などを描いたが、1905年からマチスの影響を受けてフォービズムに投げる。

1913年、南フランス、ヴェネチアを巡回し、装飾美術にも興味を持つようになるが、このころからデッサンは、より柔軟に、色彩は明るく、筆致も軽快となる。また、水彩画も多くなっていき、1923年にはブリュッセルの個展で大成功を収める。

1952年、第26回ヴェネチアビエンナーレで国際大賞を受賞、賞金をイタリアやフランスの芸術家たちの交流のために寄贈する。この年、ジュネーブの美術歴史博物館で大回顧展が開催されたが、翌1953年、フルカルキエで心臓発作のため死去、時に75歳。

ベルト・レイズは、デュフィの晩年に彼の身辺の世話をした女性である。デュフィは情熱をこめてこの作品の制作にあつたらしく、かなりの数の習作を残している。また、この作品にはデッサンのあとを薄くたどることができる。

透明感のある明るい色調と闊達な筆づかいは、彼独特的の画風をよく表しているが、特に、スカーフの緑とカーペットの赤の対比による色彩構成が効果的であり、ドレスと靴の白が洗練された雰囲気をひときわ盛りあげている。

マチスの影響によるフォービズムの特徴も感じることができ、デュフィ晩年の佳作の一つということができる。

市立美術館館長
四藏典夫

あたらしい献血、成分献血にご協力を!



成分献血は血液中の血漿や血小板だけを献血していただき、回復の遅い赤血球などは体内にお返しますので、体への負担が少ない献血方法です。

7月は愛の血液助け合い運動月間

鹿児島市献血推進対策協議会(中央保健所内)☎58-2321 鹿児島県赤十字血液センター☎57-3141 献血ルーム・天文館☎22-6511

いたましい焼死者を出さないために!!



早い通報(119番)

早い避難(避難路の確保)

早い消火(消火器など)

お宅の防火対策は大丈夫ですか?

火災による焼死者

今年はすでに11人
(平成3年6月10日現在)

3年 11人

2年 4人

元年 4人

鹿児島市消防局 ☎26-5811